

平成 22 年度事業計画

公益法人制度改革を、『民による公益の増大』の観点から財団の事業内容等のあり方を抜本的に見直すための機会と捉えて、大学生を取り巻く社会の変化等を総合的に勘案した上で、当財団の社会的な使命や活動方針を再検討いたしました。

<電通育英会の事業目的>

大学生等に対する経済的な支援及び彼らのキャリア形成支援等を行うことにより、人格・学業成績ともに優秀にもかかわらず経済的な理由で、大学・大学院進学できない全国の人材から奨学生を選び、社会経済文化の発展に資する人材育成を目的とする。

<事業目的達成の手段>

- 1、大学生／大学院生への奨学金の支給事業
- 2、奨学金支給の付帯事業として、奨学生対象のセミナー等の実施
- 3、その他目的を達成するための事業として、大学教育における人材育成に役立つ調査データ・情報の提供

平成 22 年度の事業計画を策定するに当たって、貸与奨学金制度を中止し、当財団指定大学の大学生で社会科学系や人間科学系、情報学を専攻する者に対象を絞り込んだ『大学生給付奨学金』（高校予約）に、限られた資源を集中する方向で、今後の活動計画をご提案いたしますので、ご審議をお願いします。

1-1. 大学生／大学院生への奨学金支給事業

(1) 大学生への奨学金貸与

平成 22 年度から貸与奨学生の募集・採用を中止します。ただし在学奨学生全員が修了するまでは、貸与事業及び返還免除奨学金事業、留学奨励金事業を継続します。

22 年度支出予算：（奨学金貸与支出）133,440,000 円

（21 年度支出予算：193,920,000 円）

(2) 大学生への奨学金給付（高校時予約採用）

平成 22 年度の大学入学予定者に対して、奨学金給付の募集を平成 21 年 6 月に行ない、平成 21 年 7 月選考小委員会で計 55 名が内定しました。当該内定者の内、平成 22 年 4 月に当財団指定の大学に入学した者に対し、奨学金を給付します。

平成 23 年度の大学入学予定者に対して、平成 22 年も下記の通り選考作業を行います。

①給付対象：当財団が指定する公立高等学校の 3 年生で、在学学校長の推薦があった者。成績優秀かつ学費の援助が必要と認められる者で、当財団の指定大学への入学を条件とする。理工学系、医薬系を除く。

②給付金額：月額 50,000 円、期間は大学在学中の最長 4 年間。

③給付者数：年間 50 名前後。給付者総数は、22 年度 100 名、23 年度 150 名、24 年度以降 200 名を予定している。

④採用方法：奨学金給付者は、各公立高校（全国約 100 校）から 1 名選ばれた候補者の中から、奨学生選考委員会での選考後、面接を経て理事長が決定する。なお 23 年度大学給付奨学生については、5 月に採用活動開始、9 月に予約採用内定の予定。

⑤初年度指定大学不合格の場合、次年度の再受験を認める。（所謂「一浪」まで可）。

22 年度支出予算： 60,000,000 円

(21 年度支出予算： 28,200,000 円)

*給付額は 22 年度 6 千万円、23 年度 9 千万円、24 年度以降は 1 億 2 千万円の予定。

(3) 芸術系大学生への奨学金給付の募集開始（高校時予約採用）＜新規＞

当財団の特色を出すため、平成 23 年度の芸術系大学・学部入学予定者に対して、奨学金給付の募集を平成 22 年 6 月に行ない、平成 22 年 7 月選考委員会で 10 名を限度に採用内定します。

①給付対象：当財団が指定する公立高校の 3 年生で、在学学校長の推薦があった者。成績優秀かつ学費の援助が必要と認められる者で、当財団指定の芸術系の大学・学部への入学を条件とする。

②給付金額：月額 50,000 円、期間は大学在学中の最長 4 年間。

③給付者数：年間 10 名を限度とする。給付者総数（上限）は 23 年度 10 名、24 年度 20 名、25 年度 30 名、26 年以降 40 名を予定している。

④採用方法：奨学金給付者は、各公立高校から 1 名選ばれた候補者の中から、奨学生選考委員会での選考後、面接を経て理事長が決定する。

⑤初年度指定大学不合格の場合は次年度の再受験を認める。（所謂「一浪」まで可）。

22 年度支出予算： 奨学金給付は、23 年度から開始予定

(4) 留学奨励金の給付

平成 22 年度の留学奨励金給付者を次のとおり選考します。

①給付対象：電通育英会の貸与奨学生で留学が内定している者

②給付金：100 万円を限度に渡航費・学校納付金・寮費を支給

- ③採用人員：数名（上限 10 名）
- ④募集時期：平成 21 年 6 月及び 11 月
- ⑤採用方法：電通育英会奨学生の中から募集し、奨学生選考委員会での選考、選考委員による面接を経て、理事長が決定する。

22 年度支出予算：（留学奨励金関連費）2,660,000 円
（21 年度支出予算：2,000,000 円）

（5）「成績優秀による奨学金返還免除」者の選考

電通育英会奨学生（卒業予定者）の中から、成績優秀者およびその他スポーツ・文化領域等において優秀な成績を収めた者を選び、奨学金の返還免除の特典を与えます。

- ①給付対象：卒業予定の当育英会奨学生で成績優秀者等、但し 2 年間以上奨学金の貸与を受けた者
- ②免除金額：貸与した奨学金全額（卒業時に返還免除）
- ③採用人員：20 名程度
- ④採用方法：成績優秀による奨学金返還免除者は、選考委員会で書類審査をした後、選考委員による面接を経て理事長が決定する。

22 年度支出予算：（返還免除費用）30,000,000 円 *固定資産減少分
（21 年度支出予算：37,000,000 円）

1-2 大学院生への奨学金給付事業

大学院生を対象に奨学金を給付する「大学院給付奨学生（国内）制度」は現行どおり、「大学院給付留学奨学生制度」は現地採用のかたちで継続します。

（1）大学院給付奨学生への奨学金給付

平成 22 年度の大学院入学予定者に対して、奨学金給付の募集を平成 21 年度に行ない、選考小委員会で計 27 名が内定した。当該内定者の内、平成 22 年 4 月に当財団指定の大学院に入学した者に対し、大学院修士課程 2 年間に月額 8 万円の奨学金を給付する。

- ①給付対象：
 - ・当財団が指定する大学院（修士課程）の 1 年生で、在学学校長の推薦があった者
 - ・原則として社会学系・人間科学系・情報学等を専攻する者
 - ・成績優秀で、かつ学費の援助が必要と認められる者
- ②給付金額・期間：月額 80,000 円、給付期間は 2 年以内とする
- ③採用人員：27 名程度

給付対象人数は 21 年度採用者を加え 50 名前後となる予定。

22 年度支出予算：（大学院生給付支出）48,000,000 円

(21 年度支出予算：48,960,000 円)

(2) 大学院給付留学奨学生（現地採用）への奨学金給付＜新規＞

平成 21 年度までは国内の大学院から推薦を受けて奨学生を採用していましたが、平成 22 年度から、現地採用方式に切り替えます。中国については、中国教育部の協力を得て『中国建設高水準大学国家派遣留学生事業』の採用者の中から、当財団の応募条件に合致する博士課程進学予定者の推薦を受けます。韓国については、ソウル大学校と延世大学校と協約を締結し、当財団の応募条件に合致する博士課程進学予定者の推薦を受けます。

当財団の選考委員会を経て理事長が決定する予定です。

21 年 4 月採用の大学院給付留学奨学生は、23 年 3 月修了まで奨学金を給付します。

- ①給付対象： ・当財団が指定する大学院（修士・博士課程）に在籍する者
・日本以外の国籍をもつ者
・原則として社会・人文科学を専攻する者
・成績優秀で、かつ学費の援助が必要と認められる者
・日本語によるコミュニケーションに支障のない者
- ②給付金額・期間： 月額 160,000 円、給付期間は 3 年以内とする
- ③採用人員： 7 名程度（中国人留学生 5 名、韓国人留学生 2 名）
- ④採用方法： 中国教育部ないし韓国 2 大学から推薦された候補者の中から、選考委員会の選考を経て理事長が決定する。
- ⑤採用時期： 中国は毎年 10 月から、韓国は毎年 4 月からの採用。
*ただし、初年度となる 22 年度は、中国人留学生も 4 月からの採用としたが、当初 5 名予定のところ採用者は 2 名のみにとどまった。22 年度 10 月からは、残り 3 名も合わせて 8 名採用し、23 年度 10 月からは毎年 5 名の採用予定。

22 年度支出予算：30,960,000 円

(21 年度支出予算：31,200,000 円)

<参考>今後4年間の奨学生の推移

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
大学貸与奨学生	継続 2年生～4年生 278名	継続 3年生と4年生 176名	継続 4年生だけ 75名	継続 医薬系5年6年 21名
大学貸与奨学生対象の 返還免除	継続 修了予定104名 →返還免除20名	継続 修了予定101名 →返還免除20名	最終年 修了予定54名 →返還免除10名	
大学貸与奨学生対象の 留学奨励金	継続 2年生～4年生 若干名	継続 3年生と4年生 若干名	最終年 4年生だけ 若干名	
大学給付奨学生（一般）	2年目 1年生と2年生 100名	3年目 1年生～3年生 150名	4年目 1年生～4年生 200名	5年目 1年生～4年生 200名
大学給付奨学生（芸術）	募集・採用内定だけ	1年目 1年生だけ 10名以内	2年目 1年生と2年生 20名以内	3年目 1年生～3年生 30名以内
大学院給付留学奨学生 （在学採用）	最終年 2年生だけ			
大学院給付留学奨学生 （現地採用）	4月～ 中国2名韓国2名 10月～ 中国8名計10名	4月～ 韓国2名計4名 10月～ 中国5名計15名	4月～ 韓国2名計6名 10月～ 中国5名計20名	4月～ 韓国2名計6名 10月～ 中国5名計15名

上記の他、

『大学院給付奨学生』は毎年27名程度予約採用し、常時50名程度の奨学生に給付。

2. 奨学生対象のセミナー等の実施

(1) 大学奨学生（貸与及び給付）に対する「奨学生の集い」の実施

奨学生の研修及び奨学生同士或いは財団役員・選考委員・事務局員との交流を目的とする「奨学生の集い」を、東京・大阪の2地区で開催します。開催時期は11月上旬を予定。

「奨学生の集い」では大学生の社会的視野を広げることを目的に、各界で活躍する講師を招き講演会を開いています。平成21年度の講師は神戸大学大学院の金井壽弘氏（大阪会場）、慶応大学大学院の高橋俊介教授（東京会場）。平成22年度も従来同様、大学生の夢やキャリアプランに直接的に参考となるテーマと講師を選びます。

22年度支出予算： 7,400,000円 *奨学生の交通費含む

(21年度支出予算： 7,400,000円)

(2) 大学給付奨学生に対するセミナーの実施

大学給付奨学生に対して年1回の研修セミナーへの出席を義務付けています。セミナーは、社会生活に必要な汎用的スキルの涵養や課題解決力の付与などを目的にグループ討議、プレゼン演習等を行い、優秀な人材を育成する一助とします。夏休み期間中に1泊2日の合宿形態で実施します。

22年度支出予算： 5,200,000円 *奨学生の交通費含む

(21年度支出予算： 3,300,000円)

(3) 大学院奨学生に対するセミナーの実施

大学院給付奨学生および大学院給付留学奨学生に対して、セミナーへの出席を義務付けています。セミナーは、奨学生の研究発表、各界講師による講演会、懇親会を内容とし、昨年同様年2回実施します。21年度は我究館代表杉村太郎氏（夏期）、同志社大学准教授浦坂純子氏（冬期）を講師としました。夏期セミナーは1泊2日の合宿形態で実施します。

22年度支出予算： 7,000,000円 *奨学生の交通費含む

(21年度支出予算： 6,500,000円)

(4) 修了式

大学貸与奨学生の修了生の内「成績優秀による返還免除者」及び大学院奨学生修了予定者に対して、その研鑽実績と今後の活躍を祈念して、当財団の選考委員、主要奨学財団、大学関係者ほか来賓出席のもと、「修了式及び懇親会」を3月に開催します。

22年度支出予算： 3,100,000円 *修了生の交通費含む

(21年度支出予算： 2,500,000円)

3. 大学教育における人材育成に役立つ調査データ・情報の提供

(1) 「IKUEI NEWS」の発行

平成 21 年度は 4 月号「チームワークとリーダーシップ」7 月号「ジェネリックスキル」1 月号「コミュニケーション力」を特集テーマとしました。いずれのテーマについても、大学生のキャリアの研究者や大学教職員へのインタビューと大学生自身の意見や感想を取材しました。10 月号では 21 年 8 月に京都大学と共同開催した「大学生研究フォーラム」を特集しました。

今年度も、大学生のキャリア形成や大学生活に絞って、現場情報を大学生及び大学教職員に対し提供していきます。又「大学を訪ねて」、「先輩！こんにちは」等の連載企画は継続する予定です。

主要読者層は貸与/給付中の奨学生、奨学金返還中の OBOG、大学関係者（学長室及び学生部）、教育関係者、有力財団、全国主要図書館、全国の新聞社であり、新たに大学・高校関係者等、配布先を増やしていきます。

22 年度支出予算：24,000,000 円

(21 年度支出予算：22,000,000 円)

(2) 大学・高校訪問

平成 21 年度は大学では、東北大、国際教養大、山形大、早稲田大、慶応大、中央大、京都大、同志社大、大阪大、立命館大、神戸大など合計 20 以上の大学への訪問を行いました。

高校時予約採用の対象公立高校 10 校前後にも訪問しました。

平成 22 年度も、各奨学制度の説明を中心に、各大学学生支援課及び指定高校進学担当者を訪問し、奨学事業に対する要望・意見を聴取します。ヒアリングの結果は、今後の育英事業に反映させます。大学・高校合計で 30 校程度訪問する予定です。

22 年度支出予算：800,000 円

(21 年度支出予算：800,000 円)

(3) 調査研究

平成 19 年に実施した第一回大学生意識調査は 3 年に 1 度の調査で、今年は第二回大学生意識調査となります。大学生の奨学状況等大学生活の実態及びキャリア意識等を把握する目的で、調査結果は翌年以降の大学生研究フォーラムで報告する他、ホームページでデータを公開し、大学生研究者の幅広い活用を促進します。

なお、調査は第一回調査との連続性の維持を目的に京都大学との協同により実施します。

22 年度支出予算：10,500,000 円

(21 年度支出予算：2,500,000 円)

(4) 大学生研究フォーラムの開催

大学生意識調査の結果など、大学生研究の成果を情報発信する場として、また大学生研究の課題発見のため、前年同様、京都大学と共催で平成 22 年 8 月に京都大学にて、教育学・心理学・青年若者論・労務研究等の教員、研究者及び学生を集めたシンポジウムを開催します。シンポジウムの構成は、現代大学生像、キャリア教育のあり方についての講演、パネルディスカッション、情報交換会を基本とします。22 年度は 8 月 2 日の平日開催を予定しています。

22 年度支出予算：8,000,000 円

(21 年度支出予算：8,000,000 円)

4. 奨学金の返還（収入予算）

22 年度も奨学金管理システムの改善を図り、事務処理の迅速化を図ると同時に、回収見込の難しい案件に関しては、貸倒引当基準を策定し、貸倒引当金の充当も行っていきます。

22 年度収入予算；116,000,000 円

(21 年度収入予算：120,000,000 円)